

2022年3月

お客様各位



(株)中四国クボタ

コート肥料（被覆肥料）のマイクロプラスチック問題について

3月を迎え、今年も農作業が始まりました。
さて、昨今 テレビや新聞等でコート肥料のマイクロプラスチック問題が「SDGs」の背景もあり、多く取り上げられています。
この問題解決にあたる現在の(株)中四国クボタの考え方、取組みについてお知らせ致します。

記

◇現状

約30年前より通称「一発肥料」が全国で使われ始めました。水稻でいうなら元肥・追肥・調節肥・穂肥など3～4回の田んぼでの肥料撒き作業が一回（一発）で済み非常に農作業が楽になり、一般的な農法となりました。
しかし、このコート肥料に含まれるプラスチック被覆膜の海洋流出が、環境問題として取り上げられ出しました。
この動きを受けて、(株)中四国クボタとして問題解決に向けて下記の通り、取り組みたいと考えています。

◇具体的な取り組み内容

農業者の皆様への取り組み

- 1) 被覆殻が農地から流れ出ると海洋プラスチックごみになることを農業者の皆様へ周知します。
- 2) 被覆殻の流出防止対策の実施について、農家の皆様と共に取り組んで参ります。
 - ① 入水までに田面の高低差をなくす。
 - ② 水管理の為、代掻き等の作業前に畔からの漏水がないよう、あぜ塗りやあぜシートを設置する。
 - ③ 代掻きは浅水で行う（表面が7～8割見える程度）。
 - ④ 田植え前の強制落水を行わず、自然落水で水位を調整する。
 - ⑤ 排水口にネットを設置する。
 - ⑥ 土壌診断や栽培暦等に基づいた適正施肥に努める。
 - ⑦ 施肥量の削減につながる側条施肥技術を導入する。

3) (株)中四国クボタはプラスチック被覆肥料に頼らない農業の実現と代替技術の開発・普及について、関係各位と協力して推進します。

今後も日本農業が世界の環境を守り、世界基準で持続可能となるよう(株)中四国クボタも新農法の研究・開発に邁進します。何卒、ご理解とご協力を宜しくお願いします。

以上